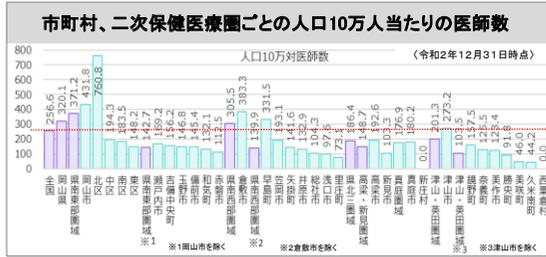


第2回医療対策協議会
第2期医師確保計画(前期)について

2023(令和5)年7月27日

岡山県医師数の推移 (三師統計)				
	H28	H30	R02	H28-R2比較
医師数	5,752	5,849	6,045	5.1%
内科医	2,101	2,161	2,243	6.8%
小児科医	308	310	323	4.9%
産科医・産婦人科医	189	183	174	-7.9%

- ・岡山県全体では、医師数は**増加**
- ・産婦人科医が**減少傾向**

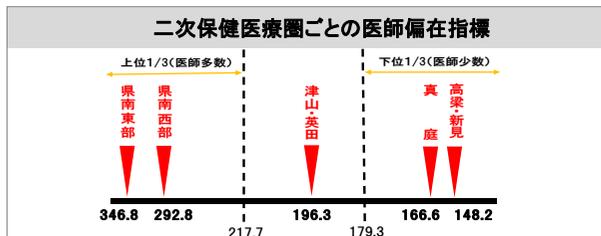


- ・岡山市、倉敷市、津山市及び早島町を除く市町村において、**全国平均を下回る。**
- ・本県の人口10万人当たりの医療施設従事医師数 **320.1人(全国平均 256.6人)**

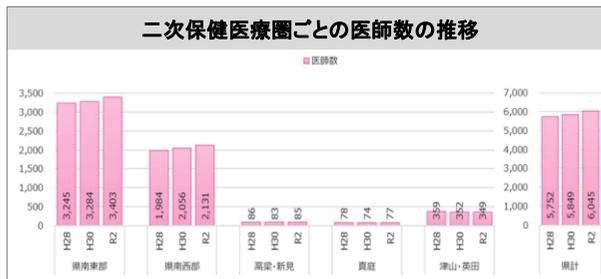
↓
各保健医療圏に医師の偏在あり

課題: 県全体の医師数は増加しているが、診療科により偏りがある。
岡山市、倉敷市、津山市及び早島町を除く市町村の医師数は全国平均を下回るなど、市町村間で医師偏在の差がある。

二次医療圏の医師偏在



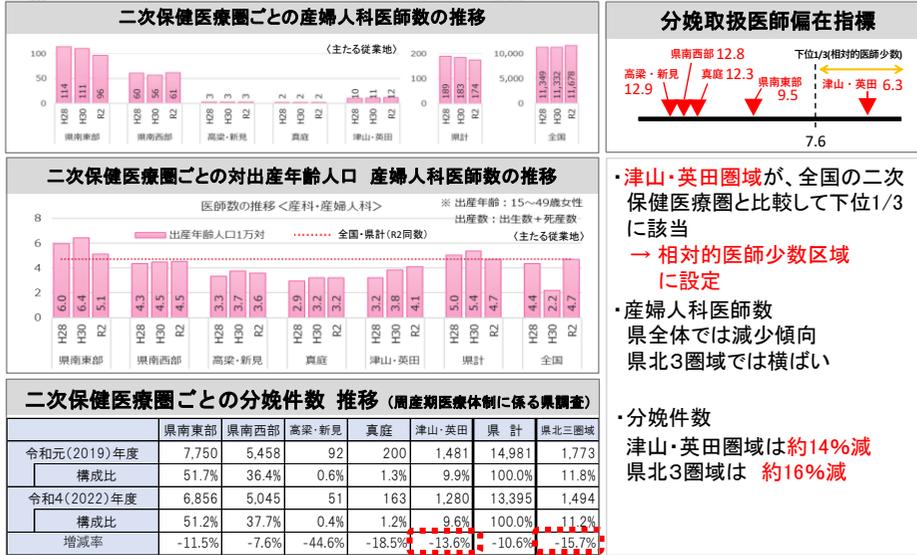
- 県南東部圏域、県南西部圏域 → 医師多数区域
- 津山・英田圏域 → 医師多数少数のどちらでもない区域
- 高梁・新見圏域、真庭圏域 → 医師少数区域



- ・県南東部圏域及び県南西部圏域 → 医師数**増加**
- ・県北の医療圏 → 医師数 **減少・横ばい減少傾向**

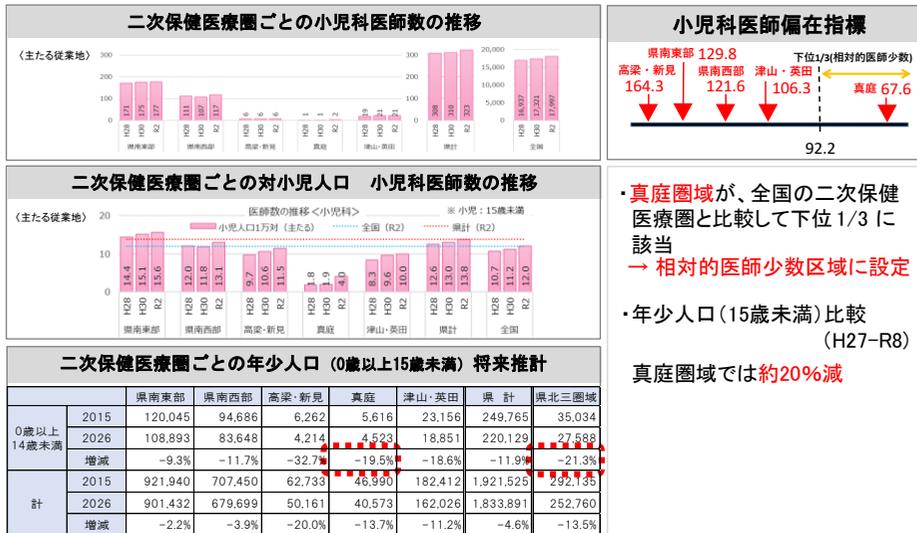
課題: 県北と県南の二次保健医療圏間で医師偏在の差が大きい。

分娩取扱医師の不足



課題：県北での分娩件数が減少する中、現在の分娩取扱医師数の維持が喫緊の課題。

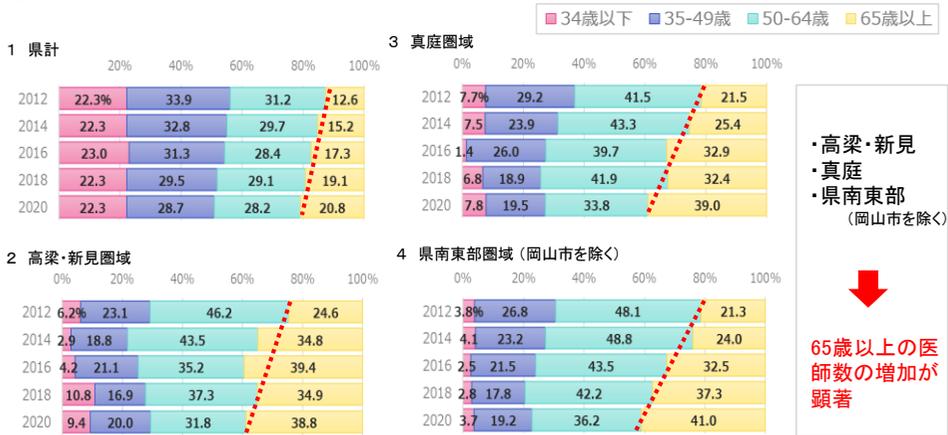
小児科医師の不足



課題：年少人口は減少するものの、小児科医師数の維持が求められる。

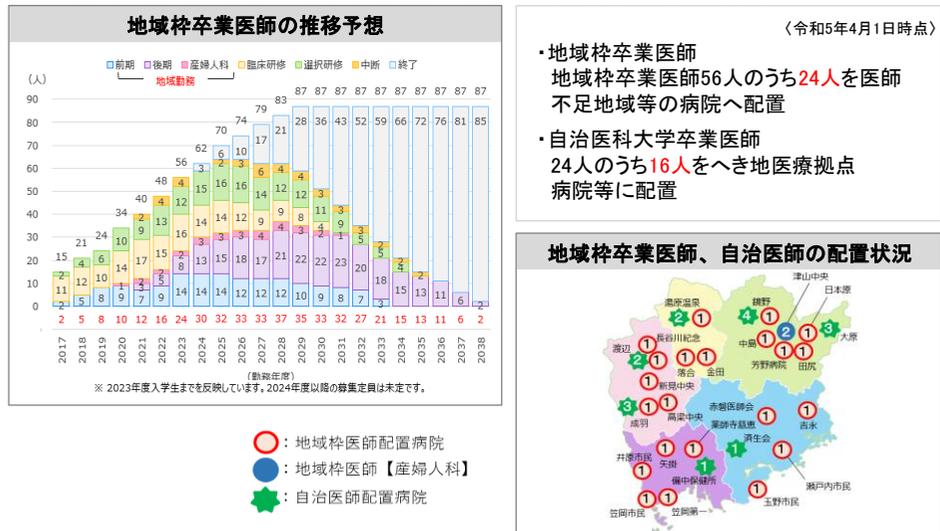
医師の高齢化

医師の年齢構成を比較したところ、県北の二次保健医療圏を中心に、65歳以上の医師の割合の増加が顕著となっている。



課題: 65歳以上の割合が多い圏域等では、今後の医療施設数の減少につながり、医療提供体制の維持が困難となりつつある。

地域卒卒業医師、自治医科大卒業医師の配置



課題: 地域卒卒業医師、自治医科大卒業医師の義務年限終了後の県内定着

へき地医療

へき地診療所への医師派遣日数			
	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)
県南東部	339	347	414
県南西部	2	22	23
高梁・新見	451	274	338
真庭	522	276	279
津山・英田	663	684	625
計	1,977	1,603	1,679
派遣先のへき地診療所数の計	24	23	23

49へき地診療所のうち、派遣要望があった全ての診療所に対し、へき地医療支援機構の調整により医師を派遣

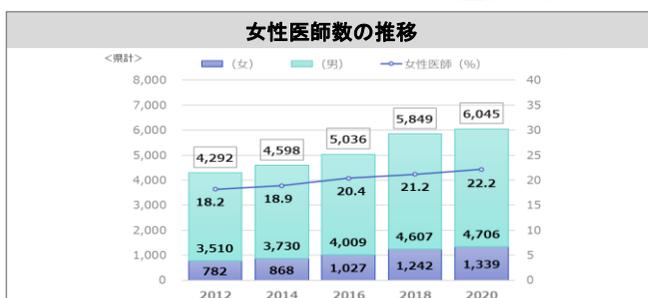
無医地区数は減少しつつあるが、無医地区に準じる地区は増加傾向

- ・無医地区数
24地区(H21)→21地区(R4)
- ・無医地区に準じる地区数
10地区(H21)→21地区(R4)

課題: 無医地区に準じる地区数が増加する中、医療アクセスが困難な地域への対応が求められる

7

女性医師



平成30(2018)年と令和2(2020)年を比較
→ 県全体
1%(97人)増加

令和2(2020)年医師全体のうち、
4人に1人が女性医師

性別及び世代構成 (令和2(2020)年度)

	20-30歳代		40-50歳代		60歳以上		計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
男	1,301	68.3%	1,750	76.4%	1,655	89.6%	4,706	77.8%
女	605	31.7%	541	23.6%	193	10.4%	1,339	22.2%
計	1,906	100.0%	2,291	100.0%	1,848	100.0%	6,045	100.0%

20~30歳代 女性医師
31.7%

40~50歳代 女性医師
23.6%

課題: 女性が占める割合が増加するなか、出産等のライフイベントが重なると、就労の継続が困難となる場合があるため、就労継続が可能となる対策が必要

8

主な課題と施策の方向

県北医療圏の医師不足における課題

県北での課題	1. 医師不足への対応 <ul style="list-style-type: none"> 医療提供体制の維持のため、医師の確保が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、自治医科大学卒業医師をへき地医療拠点病院に配置 岡山県地域医療支援センターによる地域枠卒業医師の配置 地域枠医師及び自治医師の県内定着策を検討
	2. 産科・産婦人科不足への対応 <ul style="list-style-type: none"> 分娩件数は減少するなか喫緊の課題であるが、県北で分娩が可能な施設は限られる。 → 特定の分娩施設への集中が予想されることから、拠点となる分娩施設での医師の確保が必要 	<ul style="list-style-type: none"> キャリア形成プログラムの適正な運用（産婦人科希望の地域枠医師が、直ちに専門医資格を取得できる取組を継続） 医療機関における産科医に対する分娩取扱手当、研修医手当により医師確保を支援
	3. 小児科医師不足への対応 <ul style="list-style-type: none"> 年少人口は減少するものの、小児科医師数の維持が求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の内科医等が、小児の初期救急医療等に対応できるよう、研修会を実施
診療科別の課題		

9

医師の年齢・性別の構成による課題等

県全体の課題	4. へき地医療 <ul style="list-style-type: none"> 医師不足地域における医療アクセス困難な状況への対応 	<ul style="list-style-type: none"> へき地診療所へ医師の派遣を継続 医療アクセス困難な地域の実情に応じ、オンライン診療を含む遠隔診療の活用の可能性を検討
	5. 医師の高齢化への対応 <ul style="list-style-type: none"> 65歳以上の医師の割合が多い圏域 → 医師不足による医療提供体制の確保が困難 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、自治医科大学卒業医師、地域枠医師を地域に配置 診療所が担っている機能を整理の上、地域の拠点となる病院による分担・集中化を検討
	6. 女性医師の割合 <ul style="list-style-type: none"> 出産等のライフイベントによる就労継続が困難な状況 → 大学等と連携し、子育てしながら働き続けやすい環境づくりの推進が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 岡山大学、岡山県医師会と連携して就労継続に係る相談、研修、医療機関への啓発事業を継続
検討事項	医師少数スポット 設定の検討 メリット <ul style="list-style-type: none"> 医師少数区域以外への地域枠等配置が柔軟に 医療施設の管理者の兼任が可能に 	医師少数スポットは設定しない。 <ul style="list-style-type: none"> 地域枠・自治医科大卒業医師等の医師派遣により、医師少数区域以外へ医師の配置を柔軟に実施している。 県の運用により、へき地診療所の管理者の兼任を可能としている。

10

第2期医師確保計画(前期) 目標医師数等

(目標数は、「医師確保計画策定ガイドライン」による。)

(単位：人)

保健医療圏		現状 令和2(2020)年	目標 令和8(2026)年	医師確保の方針
県全体	医師多数県	6,045	—	医師少数区域及び他の圏域内の医師不足地域へ自治医科大学卒業医師、地域枠卒業医師等の配置を行うなど、既存の施策を継続。
県南東部	医師多数区域	3,403	—	圏域内の医師不足地域へ地域枠卒業医師等の配置を行うなど、既存の施策を継続。
県南西部	医師多数区域	2,131	—	圏域内の医師不足地域へ地域枠卒業医師等の配置を行うなど、既存の施策を継続。
高梁・新見	医師少数区域	85	96	医師多数区域等からの医師派遣の継続、地域枠卒業医師等の優先配置を行う。
真庭	医師少数区域	77	81	医師多数区域等からの医師派遣の継続、地域枠卒業医師等の優先配置を行う。 小児科：相対的医師少数区域
津山・英田	どちらでもない区域	349	—	医師多数区域からの医師派遣の継続、圏域内の医師不足地域へ地域枠卒業医師等の配置を行うなど、既存の施策を継続。 産科：相対的医師少数区域

	現状 令和2(2020)年	目標 令和8(2026)年
津山・英田保健医療圏での産婦人科・産科医師数	12人	現状維持
真庭保健医療圏での小児科医師数	2人	現状維持

第9次保健医療計画 数値目標

項目	現状	令和11(2029)年度末 目標
県北の保健医療圏における病院の10万人対医師数	186.4人 R2(2020)	現状維持
県内の医師不足地域の医療機関に勤務する地域枠卒業医師の数	24人 R5(2023)	29人
復職を果たした女性医師数	183人 R5(2023)	267人